

# 放射能とナシヨナリズム ―〈福島〉と〈フクシマ〉のあいだ

山梨学院大学法学部教授  
小菅 信子

- \*「その他のトンデモ系」？
- \*カタカナ書き「フクシマ」の意味
- \*不信の連鎖をどう断ち切るか
- \*極限状態と人間性、人権
- \*許容できない暴言と差別
- \*悲惨さを強調する行き方
- \*苦しみをどう取り除くか
- \*美化してきた歴史も
- \*どの情報を信じるか
- \*状況の改善をまず進めよ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

東日本大震災から一年たって、今週は新聞、テレビ、雑誌はそのテーマで持ちきりでしたけれども、経済倶楽部ではちょっと違った視点から震災から一年を振り返ってみたいと考えて、山梨学院大学教授の小菅信子さんをお願いしました。

小菅さんは石橋湛山賞を6年前に中公新書の『戦後和解』で受賞されましたけれども、これは日英の戦争捕虜の不信をどうやって和解へ持っていくかという重たい、たいへん重要なテーマに取り組まれたものです。その後も和解の問題とか、平和とか、人道とかの研究をされておられて、福島の問題もそういう視点から研究されていて、現地へも何度も行っておられます。

石橋財団もお世話になっておりまして、石橋湛山新人賞の選考委員をしていただいていますというところで東洋経済ともたいへんご縁の深い学者です。小菅さんは皆さんの娘さんぐらいの年齢で、ちょっと緊張されていますから、肩の力を抜いて、（笑）ゆったりとお願ひします。そして、ソーシャルメディアなどの細かい話とされるとちょっとわかりにくいかもしれないので、その辺はざっくりと話していただくことにしましょう。では小菅さん、よろしくお願ひいたします。（拍手）

小菅 ご紹介ありがとうございます。私は山梨学院大学法学部政治行政学科の小菅信子と申します。皆様方は私のお父様、お母様の世代なので、どうぞご愛顧のほどよろしくお願ひしま